

## 令和2年度第2回豊田市環境審議会 会議録

【日 時】 令和2年7月27日(月) 午後1時30分～3時

【場 所】 豊田市役所 南庁舎 南51会議室

【出席者】

(委 員)	千頭 聡	(日本福祉大学国際福祉開発学部 教授)	《会 長》
	渡部 教行	(豊田市自然愛護協会 会長)	《副会長》
	内田 心一	(豊田市区長会 理事)	
	梅村 豊作	(市民公募)	
	梅村 良	(とよたエコライフ倶楽部 運営委員)	
	大熊 千晶	(日本野鳥の会 レンジャー)	
	加藤 智和	(市民公募)	
	近藤 琢也	(豊田商工会議所第2工業部会 副部会長)	
	近藤 恭弘	(豊田商工会議所第1工業部会 部会長)	
	篠田 陽作	(名古屋経営短期大学子ども学科 講師)	
	島田 知彦	(愛知教育大学教育学部理科教育講座 准教授)	
	杉山 佐由紀	(NPO 法人とよたエコ人プロジェクト)	
	杉山 範子	(名古屋大学大学院環境学研究科附属 持続的共発展教育 研究センター 特任准教授)	
	谷口 功	(椛山女学園大学人間関係学部 教授)	
	寺田 安孝	(あいち豊田農業協同組合 常務理事)	
	永江 榮司	(市民公募)	
	林 基生	(気象庁名古屋地方気象台 次長)	
	増田 理子	(名古屋工業大学社会工学専攻 教授)	
	山内 徹	(市民公募)	

(計19人)

(事務局) 杉浦環境部長、小澤環境部副部長、塩谷環境政策課長、松井環境保全課長、  
近藤廃棄物対策課長、中野ごみ減量推進課長、長嶋清掃業務課長、  
浦野清掃施設課長、宇佐美環境政策課副課長、青木ごみ減量推進課副課長 (ほか)

【欠席者】 前田 洋枝 (南山大学総合政策学部総合政策学科 准教授)

【傍聴人】 なし

【次 第】

- 1 開会
- 2 環境部長挨拶
- 3 会長挨拶
- 4 委員紹介
- 5 議 題
  - (1) 各専門部会における施策進捗評価に対する審議結果 (報告)
  - (2) 「安全・安心社会」の進捗評価について (協議)
  - (3) 「市民の環境行動力の向上と共働の分野」の進捗評価について (協議)

【議 事】

- 1 開会
- 2 環境部長挨拶
- 3 会長挨拶
- 4 委員紹介
- 5 議題

(1) 各専門部会における施策進捗評価に対する審議結果（報告）

会長	<p>本日は、半数以上の委員が出席しているので、本会議として成立している。</p> <p>各部会での議論について報告していただきたい。</p>
委員	<p>（資料1に沿って低炭素社会における協議結果を説明。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・15の施策のうち「遅れ」と評価した2つの施策について主に議論した。</li> <li>・スマートハウス化については市民への住宅設備補助件数が順調に推移しており、各家庭のスマートハウス化は進んでいる。一方で街区のスマート化については、開発適地がなく新たに整備されていないということで「遅れ」と判断した。都市計画上でも、市街地を形成していくエリアなどを指定しているのみで、街区のスマート化については記載されていない状況である。環境基本計画、地球温暖化防止行動計画上で街区のスマート化を重点施策として掲げているのであれば、本審議会の内容を都市計画に反映させるべきである。市の担当者からは、新規での整備事業だけではなく、既成市街地の再整備などでもスマート化や低炭素化に関する要素を入れていくことは可能性があり、今後、都市整備課や市街地整備課等と相談しながら検討を続けたいという回答であった。</li> <li>・もう1つの「遅れ」とした環境配慮行動については、「環境行動力の向上と共働の分野」で内容が重なるため、本日の議題3で事務局から説明をお願いします。</li> </ul>
委員	<p>（資料2に沿って自然共生社会における協議結果を説明。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・13の施策のうち「順調」11件、「遅れ」2件と評価した。</li> <li>・「遅れ」となった施策だけでなく、施策全てについて協議を実施した。</li> <li>・「遅れ」となった施策のうち、市街地の緑化に関しては、安全面への配慮や落ち葉などの環境整備なども含め、市民への説明が必要になる。このため、市街地の緑地をどのように計画し整備するのか、市で方針を打ち出していく必要があるという意見が出た。</li> </ul>
委員	<p>（資料3に沿って循環型社会における協議結果を説明。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11の施策を全て「順調」と評価した。</li> <li>・今後見直しを進めていく中で、留意しなくてはいけない事項がいくつかあることを確認している。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、循環型社会の指標の達成状況に影響が出てくることが予想される。どのように評価するのかを今後検討する必要がある。</li> <li>・事業系可燃ごみの排出量については、計画策定時には想定していなかった矢作川の河川工事による刈草や剪定枝が多く排出され、目標値に比べ増加しているが、排出量の管理がなされており、数値に大きな影響はないということで、「順調」とした。</li> </ul>
会長	<p>所属部会以外の協議結果について、意見等をご発言いただきたい。</p>

委員	順調と評価した施策でも、実際に事業を実施している状況をきちんと評価すべきであり、活動を継続していけるような仕組みを考えていく必要がある。
会長	低炭素社会については、街区のスマート化について、議論の中心が旧市内だけにならないように、旧町村部のいなか暮らしもある意味スマートな暮らしであるため、両側面での推進が必要と考える。 自然共生社会については、市街地の緑化について、「緑の基本計画」「緑のマスタープラン」の中で、どのように扱われ、進行管理しているのかを念頭に、進める必要がある。 循環型社会については、国では家庭から出るプラスチックごみを一括回収する新たな分別区分を設ける方針が議論されていると聞いている。大きな方針転換となるので、豊田市としてどのように考えるか検討しておく必要がある。

(2) 「安全・安心社会」の進捗評価について（協議）

会長	議題2について事務局からの説明をお願いします。
事務局	（資料4に基づき「安全・安心社会」の昨年度実績について報告） 3つの施策の柱、全11施策、全て「順調」と評価した。
会長	進捗状況としては全て「順調」とのこと。 質問や意見をご発言いただきたい。
委員	低炭素社会の専門部会でも意見があったが、気候変動への適応に関する指標が市職員の理解度になっている。職員の理解度も重要な指標だが、気候変動の影響はどんどん進んでいる状況である。分野ごとの脆弱性評価などの指標も準備する必要がある。
委員	例えば雨水設定値が以前と変わってきている。例えば、時間雨量50mmというのは、以前は数年に一度だったものが今では毎年発生している状況もある。これに対して対策を変えないといけないと思うが、豊田市ではどのようになっているか。
会長	気候変動の豊田市の脆弱性を克服するような指標が必要ではないかという指摘、またそれに関連して、気候変動に対応して雨量などの値が適切に設定できるのか、あるいはそれに対して対策の検討を進められているのか、という質問であったかと思う。
事務局	まちの状態指標では市民の認知度も評価する。 分野ごとの脆弱性の評価については、今年度気候変動適応計画の骨子案を作成する。審議会でも議論いただきながら、指標を設定していきたいと思っている。 今後中間見直しをする中で、現在設定している指標が妥当なのかを検討し、見直しを進めていきたい。 雨量の設定などについては、防災対策関連部署の確認が必要である。
会長	気候変動への適応に関しては組織横断的に事業計画を検討する必要があると思われる、中間見直しの中で検討を進めていただければと思う。
委員	災害廃棄物の受け入れについて、先日発生した九州の豪雨でも災害廃棄物が多く発生し、他の市町が受け入れている状況がある。豊田市ではどのように対応するか、見直しの際に含めて考えていく必要がある。
会長	豊田市は災害廃棄物について協定を結んでいると思われるが、どうか。
事務局	平成28年に災害廃棄物処理計画を策定し、これに基づいて準備を

	進めている。収集については民間の収集運搬業者と運搬協定を結び、体制整備を進めている。昨今の熊本などで発生した災害の課題を踏まえ今後見直しを随時実施していく。 中部地区での被災については、環境省中部地方局で取りまとめがあり、応援できるよう体制を整えている。
委員	【5. 1 不良な生活環境の解消率】について、なぜ目標の達成状況が高水準で推移しているのか。
事務局	5年前、豊田市内のごみ屋敷が延焼したことを発端に条例を制定した。それまで、豊田市にごみ屋敷を担当する部署がなかった。ごみ屋敷の状態についても、ごみをため込むだけでなく、動物飼育状況や草生えなどもある。これに対し、環境保全課を一つの窓口として庁内調整を実施し、福祉的な支援や、地域の協力も得ながら、根本的に解決していくような仕組みを整備した。これにより、目標の達成状況が高水準で進んだと考える。
会長	豊田市は福祉部局も巻き込み、ケース会議が細かく開かれている。環境保全課は窓口だが、それぞれのケースに多くの部署が協議している。
委員	目標達成できていない施策も、このような仕組みができれば達成することが可能だということを実証していると感じた。
会長	ただし、何をもって完全に解消したと言えるのかは難しい。少なくとも大きな影響を及ぼす事例がないというところで落ち着いている。

(3) 「市民の環境行動力の向上と共働の分野」の進捗評価について（協議）

会長	議題3について事務局からの説明をお願いします。
事務局	(資料5に基づき「市民の環境行動力の向上と共働の分野」の昨年度実績について報告) ・全10施策のうち、「順調」が8施策、「遅れ」が2施策と評価した。
会長	施策の柱の順番にご意見いただきたい。まず、5. 1について、ご発言いただきたい。
委員	自然観察の森における環境学習機会の提供については、ここ最近では感染症の影響や施設が浸水した関係で閉館している状況ではあるが、見学を希望する学校はたくさんあって、バスの予約状況は埋まっており、「順調」という評価は妥当と思う。 観察会は内容によって集客はまちまちである。しかし、様々な視点を持つという点で、複数の切り口の観察会は大事だと思われるので、参加者を募る工夫を進めていく。
会長	次に5. 2について、ご意見いただきたい。
委員	とよたSDGsパートナーについて、次の見直しの際に、具体的にその数字を入れることは検討しているか。
事務局	とよたSDGsパートナーという考え方は計画策定当初にはなかったものである。パートナーとの連携の中でも環境に関するものについて、今後中間見直しの際に含められるか検討していきたい。
会長	次に5. 3、5. 4について、ご発言いただきたい。 特に5. 4については平成30年度実績でも「遅れ」の評価になっている。
委員	循環型社会の専門部会でも協議があったが、実際にはごみの分別を始め、身近なごみの意識がなかなか変わっていない。 市民には、ごみの分別のような身近な環境行動が求められている。どのように環境行動を促すのか、よく検討する必要がある。現場の苦勞

	を毎年聞くだけで終わってしまっている。
委員	環境学習施設への来館者ばかりではなく、アウトリーチの実績も目標値に加えてはどうか。 旧町村部においても環境学習の機会を与えることができる。
会長	この点についても、中間見直しの際に指標について見直しを進める必要がある。
事務局	【5. 1 環境学習施設における講座等の受講者数】については、出前講座の参加者数も入っている。それがわかる形に表現の仕方も含め今後見直しの段階で検討していきたい。
会長	レジ袋有料化について環境分野を専門にしている学生がどのように考えているか聞く機会があったが、様々な見方があることに気づかされた。環境学習は限られた意識の高い人に向けたものだけではないということを考えておく必要がある。 5. 5、5. 6について、ご意見をご発言いただきたい。
委員	【5. 5 市内外への情報発信】について、デジタル化の技術を活用した情報交換、リモートや SNS などを活用し工夫をすると、もう少し活動が活性化するのではと思っているので、検討してほしい。
事務局	コロナ禍における環境学習について、施設に来訪してもらえず、出前講座で学校訪問ができない状況の中で、環境学習施設エコットや自然観察の森では、講座の内容を動画にして配信するなど工夫して取組を開始した。今後このような取組を新しい生活様式の中で広げていくことができればと考えている。
会長	その他、全体を通して何か意見はあるか。
委員	進捗状況について、「達成」、「順調」、「遅れ」の評価について、曖昧である。「達成」というのは中間や最終評価で見えてくるのでは。「順調」と「遅れ」の間に「順調なのだけども見直さなくてはいけない」というような評価があってもいい。見直し作業の際に検討して欲しい。
会長	事務局より「達成」及び「順調」について定義を説明して欲しい。
事務局	(参考資料に沿って計画の進捗管理方法を説明) 1つの施策について多くの事業で構成されているものもあり、そのような場合は、施策の中に構成される事業全てをトータルで見えて評価をしている。
会長	「達成」とだけ書いていると伝わりにくい。例えば「中間目標達成」など注意書きでの表記が必要かと思う。
委員	【5. 6 市の環境率先行動】について、省エネの活動が進み今後は電気の使用量は下がってくると思われる。 紙の使用量については、事業者ではペーパーレス化が進んでいる状況もある。この環境審議会も資料の PDF 配付等でデジタル化を進めてはどうか。
事務局	是非試みていきたいと思う。
会長	大学においてもペーパーレスが進んでいる。当審議会も率先してペーパーレスを進めていきたい。 本日予定していた議題は以上である。

6 その他

7 閉会